

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月14日

【四半期会計期間】 第85期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 相模ゴム工業株式会社

【英訳名】 SAGAMI RUBBER INDUSTRIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大跡 一郎

【本店の所在の場所】 神奈川県厚木市元町2番1号

【電話番号】 046(221)2311(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部本部長 吉田 邦夫

【最寄りの連絡場所】 神奈川県厚木市元町2番1号

【電話番号】 046(221)2311(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部本部長 吉田 邦夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第84期 第2四半期連結 累計期間	第85期 第2四半期連結 累計期間	第84期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(千円)	2,867,742	2,956,548	5,710,305
経常利益	(千円)	612,646	859,151	1,549,464
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	406,470	661,108	1,113,644
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	248,864	706,241	1,016,137
純資産額	(千円)	4,088,101	5,447,542	4,853,735
総資産額	(千円)	8,985,169	10,982,256	10,094,677
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	37.41	60.87	102.50
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	43.3	47.4	45.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	260,056	199,298	1,146,139
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	328,375	855,066	721,119
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	114,104	154,291	128,724
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,129,980	1,377,545	1,876,845

回次		第84期 第2四半期連結 会計期間	第85期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	8.64	33.93

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が見られ、緩やかな回復基調で推移しました。しかし米国の経済政策の動向や北朝鮮の情勢等、先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当第2四半期連結累計期間の売上高は29億56百万円（前年同四半期比3.1%増）、営業利益は8億24百万円（前年同四半期比0.1%減）、第1四半期連結累計期間で生じた為替差損が解消され、経常利益は8億59百万円（前年同四半期比40.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億61百万円（前年同四半期比62.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

ヘルスケア事業

ヘルスケア事業は、恒例の“サガミオリジナル 真夏のさびしんぼナイト”の開催、ユーチューバーとの交流、各種展示会への積極的な出店等、ポリウレタン製コンドーム・サガミオリジナルのブランド浸透活動に傾注しました。また、ラテックス製コンドームにおいてはユーザーのニーズに応えた新商品の発売を開始し、需要の喚起を図りました。この結果、売上高は22億27百万円（前年同四半期比4.3%増）、営業利益は9億62百万円（前年同四半期比3.8%増）となりました。

プラスチック製品事業

プラスチック製品事業は、荷動きの悪さから販売数量が落ち込み、一部プラントの稼働停止から原料価格値上げの機運が高まってきました。この結果、売上高は6億20百万円（前年同四半期比0.3%減）、営業利益は69百万円（前年同四半期比9.7%減）となりました。

その他

その他の事業の入浴・介護サービス等の売上高は1億8百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業損失は18百万円（前年同四半期は営業損失22百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ8億87百万円増加し、109億82百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が5億31百万円、有形固定資産が7億61百万円増加し、現金及び預金が4億99百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億93百万円増加し、55億34百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が1億48百万円、短期借入金が4億19百万円増加し、未払法人税等が1億34百万円、長期借入金が1億16百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億93百万円増加し、54億47百万円となりました。これは主に、利益剰余金が5億52百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ4億99百万円減少し、13億77百万円(前年同四半期は11億29百万円)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が8億58百万円、減価償却費が1億21百万円と仕入債務の増加額が1億14百万円あったものの、売上債権の増加額5億28百万円、法人税等の支払額2億99百万円等により、獲得した資金は1億99百万円(前年同四半期は2億60百万円の獲得)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が8億58百万円あったこと等により、使用した資金は8億55百万円(前年同四半期は3億28百万円の使用)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加額3億84百万円、長期借入金の返済による支出が1億16百万円と配当金の支払が1億8百万円あったこと等により、獲得した資金は1億54百万円(前年同四半期は1億14百万円の使用)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めております。内容は、次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、金融商品取引所に株式を上場している会社として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様の決定に委ねられるべきだと考えています。

但し、株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるものなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えております。

取組みの内容

イ 基本方針の実現に資する特別な取組み

(企業価値向上への取組み)

当社は地球の環境問題、食糧需給のアンバランス、飢餓・貧困等諸問題に大きく関わりを持つ人口爆発に対処すべく、世界市場を舞台に選び、意義ある事業を発展させ、真の意味での豊かな社会作りに貢献することを目指して全社員で日々挑戦しております。社員のその取組みにおける基本姿勢は、社会変化を素早く、的確に捉え、ユーザーや消費者の方々が求める高品質、高付加価値の商品・サービスを独自の発想の開発手法と企画力を駆使して提供することにあります。また、今まで世に送り出してきた当社製品が象徴するように、他社に安易に追随する類似製品の上市やマーケティング手法の模倣を極力排除し、ユーザーや消費者の方々が求める高品質で個性溢れるユーティリティの高い製品・サービスを提供することを念頭に日々業務に当たっております。

当社の発展の尺度については必ずしも量的追求に主眼を置かず、利益の最大化及びユーザーや消費者並びに株主の皆様の満足度の最大化をその規準としております。従いまして、当社の基本的方針のキーワードは、以下のように表されると存じます。

物心両面での豊かな社会作り
高価値商品・サービスの提供
利益の最大化
創造性重視
社員の自己啓発と自主性の醸成
柔軟性と即応性を持った経営
グローバル化対応

昭和9年創業以来、当社に根付いた経営理念や長年にわたり蓄積された開発・生産・営業に関する技術・知識・ノウハウ、取引先との協力関係、営業及びそのネットワークなど、当社の主力事業でありますヘルスケア事業やプラスチック製品事業に対する深い理解や造詣が今後の経営においては、一層ますます重要になってまいります。

当社は変化の激しい現在の社会状況下、確固たる経営基盤とどんな変化にも対応が可能な体制を継続的に追求してまいります。また、各事業の活動については経営の集中化及び効率化を進め、創造性の高い製品・サービスの供給に一層拍車を掛けて取り組むことで、他社と差別化できる独自性を強く打ち出してまいります。一方、コスト面においてもその優位性を発揮すべく、日々改善の努力をしつつ、システム変更まで視野に入れた抜本的改革にも着手いたします。

グループ会社の経営に当たっても、グループ全体として有機的に機能すべく、グローバル化戦略の実現を継続し、目指します。

創業以来の当社及び当社グループの取組みの積み重ねが現在の企業価値の源泉になっており、このような取組みを通じて、企業収益の拡大を図ることにより、取引先、従業員等のステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにし、中長期的に企業価値ひいては株主共同の利益の向上に資することができると考えております。

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方として、全社員一丸となって、社会における企業のあり方・使命を肝に銘じ、株主・消費者及び取引先の信頼を損なわない、事業活動の向上を目指しております。

よって、当社は、法令を誠実に遵守し、株主利益の最大化に努め、社会的良識をもって行動することにより、社会貢献、企業価値の向上を図ります。

また、当社は、常務会及び取締役会並びに幹部社員参加の経営会議において、経営の透明性を高め、意思決定のスピードアップにも努めております。

なお、取締役会の監督機能の強化によるコーポレート・ガバナンスの充実という観点から、平成28年6月28日開催の第83回定時株主総会において監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行いたしました。監査等委員の構成は、2名を社外取締役とし、取締役会の職務執行や意思決定事項を客観的に監査・監視できる体制としており、加えて内部統制の実効化によりコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。

□ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社株式の大規模買付行為を行おうとする者が遵守すべきルールを策定するとともに、一定の場合には当社が対抗措置をとることによって大規模買付行為を行おうとする者に損害が発生する可能性があることを明らかにし、これらを適切に開示することにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株式の大規模買付行為を行おうとする者に対して、警告を行うものです。

取締役会の判断及びその判断に係る理由

- イ 前述 イの取組みは、当社の企業価値を継続的かつ持続的に向上させるための具体的な方策として策定されたものであるため、前記 の基本方針に沿い、株主の共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。
- ロ 前述 ロの取組みについては、大規模買付行為に関する情報提供を求めるとともに、大規模買付行為が当社の企業価値を毀損する場合に対抗措置を発動する可能性があることを定めるものであり、前記 の基本方針に沿ったものであります。また、その導入については株主意思を尊重するため、株主総会で承認をいただき、更に取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止するために独立委員会を設置し、取締役は独立委員会の勧告を最大限尊重するとともに、株主及び投資家の皆様に適時に情報開示を行うことにより透明性を確保することとしています。従いまして、当社取締役会は、当該取組みが株主共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は45百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	43,740,000
計	43,740,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,937,449	10,937,449	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数1,000株
計	10,937,449	10,937,449		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年7月1日 から 平成29年9月30日		10,937,449		547,436		681,385

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大 跡 一 郎	東京都調布市	1,072	9.81
大 跡 典 子	東京都世田谷区	984	9.00
(株)横浜銀行	横浜市西区みなとみらい3 - 1 - 1	536	4.91
MSCO CUSTOMER SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券(株))	1585 Broadway New York, New York 10036, U.S.A. (東京都千代田区大手町1 - 9 - 7)	496	4.53
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町2 - 11 - 3	492	4.50
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海1 - 8 - 11	469	4.29
三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内1 - 4 - 5	410	3.75
CREDIT SUISSE AG HONG KONG TRUST A/C CLIENT (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	LEVEL 88, INTERNATIONAL COMMERCE CENTRE, 1 AUSTIN ROAD WEST, KOWLOON, HONG KONG (東京都千代田区丸の内2 - 7 - 1)	360	3.29
相模産業(株)	東京都千代田区神田小川町2 - 8	324	2.96
(株)八千代銀行	東京都新宿区新宿5 - 9 - 2	200	1.83
計	-	5,345	48.87

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 77,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,760,000	10,760	
単元未満株式	普通株式 100,449		
発行済株式総数	10,937,449		
総株主の議決権		10,760	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権数2個)含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式171株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
相模ゴム工業株式会社	神奈川県厚木市元 町2番1号	77,000		77,000	0.7
計		77,000		77,000	0.7

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。
なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、應和監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,876,845	1,377,545
受取手形及び売掛金	2,051,278	¹ 2,582,579
たな卸資産	² 1,006,211	² 1,040,661
繰延税金資産	60,405	58,534
その他	42,886	70,407
貸倒引当金	65,771	63,064
流動資産合計	4,971,854	5,066,665
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,108,543	2,148,742
減価償却累計額	1,341,339	1,358,639
建物及び構築物(純額)	767,203	790,102
機械装置及び運搬具	5,322,272	5,356,372
減価償却累計額	2,832,443	2,905,677
機械装置及び運搬具(純額)	2,489,829	2,450,694
土地	841,577	1,095,770
建設仮勘定	392,460	916,603
その他	226,705	230,544
減価償却累計額	175,790	180,699
その他(純額)	50,915	49,844
有形固定資産合計	4,541,985	5,303,015
無形固定資産	5,703	5,340
投資その他の資産		
投資有価証券	507,497	551,600
繰延税金資産	9,589	-
その他	77,303	78,418
貸倒引当金	19,257	22,784
投資その他の資産合計	575,133	607,234
固定資産合計	5,122,822	5,915,591
資産合計	10,094,677	10,982,256

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	413,510	1 562,024
短期借入金	3,211,560	3,631,130
未払法人税等	332,520	198,018
賞与引当金	70,722	89,392
その他	476,267	418,896
流動負債合計	4,504,580	4,899,461
固定負債		
長期借入金	352,000	236,000
役員退職慰労引当金	287,345	304,326
退職給付に係る負債	85,482	79,223
資産除去債務	5,328	5,328
長期預り保証金	1,400	1,400
繰延税金負債	-	5,669
その他	4,806	3,304
固定負債合計	736,362	635,252
負債合計	5,240,942	5,534,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	547,436	547,436
資本剰余金	681,385	681,385
利益剰余金	4,082,166	4,634,646
自己株式	25,829	29,634
株主資本合計	5,285,158	5,833,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	224,775	255,676
為替換算調整勘定	880,901	887,294
その他の包括利益累計額合計	656,126	631,618
非支配株主持分	224,702	245,327
純資産合計	4,853,735	5,447,542
負債純資産合計	10,094,677	10,982,256

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	2,867,742	2,956,548
売上原価	1,440,495	1,477,047
売上総利益	1,427,246	1,479,501
販売費及び一般管理費	601,943	655,130
営業利益	825,303	824,371
営業外収益		
受取利息	1,546	1,086
受取配当金	6,894	6,692
作業くず売却益	7,494	5,830
為替差益	-	17,762
その他	10,810	7,477
営業外収益合計	26,745	38,849
営業外費用		
支払利息	3,352	3,484
為替差損	236,030	-
その他	19	584
営業外費用合計	239,402	4,069
経常利益	612,646	859,151
特別利益		
固定資産売却益		28
特別利益合計		28
特別損失		
固定資産除売却損	928	758
特別損失合計	928	758
税金等調整前四半期純利益	611,718	858,421
法人税等	199,491	178,321
四半期純利益	412,227	680,099
非支配株主に帰属する四半期純利益	5,756	18,990
親会社株主に帰属する四半期純利益	406,470	661,108

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	412,227	680,099
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,149	30,900
為替換算調整勘定	144,213	4,758
その他の包括利益合計	163,362	26,142
四半期包括利益	248,864	706,241
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	262,166	685,616
非支配株主に係る四半期包括利益	13,302	20,625

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	611,718	858,421
減価償却費	109,179	121,377
貸倒引当金の増減額(は減少)	361	786
賞与引当金の増減額(は減少)	13,036	18,670
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	8,556	6,439
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	11,749	16,981
受取利息及び受取配当金	8,440	7,778
支払利息	3,352	3,484
為替差損益(は益)	7,121	23,175
有形固定資産除売却損益(は益)	928	730
売上債権の増減額(は増加)	529,811	528,629
たな卸資産の増減額(は増加)	107,303	29,794
仕入債務の増減額(は減少)	126,916	114,926
その他	122,525	91,653
小計	354,922	494,255
利息及び配当金の受取額	8,088	7,528
利息の支払額	3,611	2,819
法人税等の支払額	99,342	299,665
営業活動によるキャッシュ・フロー	260,056	199,298
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	329,847	858,702
有形固定資産の売却による収入		28
投資有価証券の取得による支出	130	148
無形固定資産の取得による支出	2,586	175
無形固定資産の売却による収入	530	
貸付金の回収による収入	3,658	3,931
投資活動によるキャッシュ・フロー	328,375	855,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	700,000	384,200
長期借入れによる収入	700,000	
長期借入金の返済による支出		116,000
自己株式の取得による支出	1,461	3,804
配当金の支払額	110,841	108,601
その他	1,802	1,502
財務活動によるキャッシュ・フロー	114,104	154,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	39,618	2,177
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	222,042	499,299
現金及び現金同等物の期首残高	1,352,022	1,876,845
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,129,980	1,377,545

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日または決済日をもって決済処理しております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	千円	344,377千円
支払手形		96,349

2 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
商品及び製品	306,069千円	274,085千円
仕掛品	197,106	251,324
原材料及び貯蔵品	503,034	515,251

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
運賃	61,020千円	59,609千円
広告宣伝費	39,010	43,501
給与手当及び賞与	147,246	146,110
貸倒引当金繰入額	361	786
役員退職慰労引当金繰入額	11,749	16,981
賞与引当金繰入額	29,983	34,136
退職給付費用	12,946	4,661

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金	1,129,980千円	1,377,545千円
現金及び現金同等物	1,129,980	1,377,545

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	108,664	10	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	108,628	10	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ヘルスケア 事業	プラスチ ック製品 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,135,058	622,373	2,757,432	110,310	2,867,742		2,867,742
セグメント間 の内部売上高 又は振替高							
計	2,135,058	622,373	2,757,432	110,310	2,867,742		2,867,742
セグメント利益 又は損失()	926,841	77,237	1,004,078	22,586	981,492	156,189	825,303

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、巡回入浴等のサービスや日用雑貨品等を製造・販売しております。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去と各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ヘルスケア 事業	プラスチ ック製品 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	2,227,452	620,687	2,848,140	108,408	2,956,548		2,956,548
セグメント間 の内部売上高 又は振替高							
計	2,227,452	620,687	2,848,140	108,408	2,956,548		2,956,548
セグメント利益 又は損失()	962,489	69,711	1,032,200	18,778	1,013,421	189,050	824,371

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、巡回入浴等のサービスや日用雑貨品等を製造・販売しております。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去と各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	37円41銭	60円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	406,470	661,108
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	406,470	661,108
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,865	10,861

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月14日

相模ゴム工業株式会社
取締役会 御中

應和監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 星 野 達 郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 土 居 靖 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている相模ゴム工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、相模ゴム工業株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。